

子ども・子育て会議ワーキング第1部会 実施報告

■第1部会【8月6日、8月27日、9月9日開催】

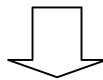
市民みんなで支えあう子育て ～ワークイバラス・地域力・市民力～

●長岡の子育て環境の改善ポイント(現状と課題)

- ・核家族の孤立感の解消、親育ての支援が必要。
- ・妊娠中からの継続的なサポート体制が必要。
- ・子育て支援サービスの地域格差の解消や地域ごとにあったサービス提供をすること。今ある施設やサービスの良さを伝えることも必要。
- ・子育て支援情報の交通整理が必要。情報をもっと伝わりやすく、分かりやすく、必要な人へ届ける工夫を。情報を上手く活用出来ない人のフォローも。
- ・子育ての担い手を増やす仕掛けが必要。家族だけでなく、地域のおじいちゃん、おばあちゃん、NPOや子どものボランティアなど多くの人がかかわりを持つこと。
- ・子育てへの理解がある職場環境が必要。

●子育て支援の方向性・基本的な考え方

- ・みんなが笑顔になる子育て…親と子のつながり、家庭愛の大切さ、「愛情」「愛着」の育て方を考える。
- ・次世代育成と親支援…次世代の親への教育、命の教育
- ・子どもの視点からの子育て支援…やってもらう支援から親の子育て力をつける支援へ、子育て親育ちの力をつける。
- ・子育ては「最大の社会貢献」である…子育てを応援する職場風土づくり
- ・地域の子育てネットワークづくり…地域ぐるみの子育て支援、地域の人材活用、地域での居場所づくり(多世代交流)



部会の検討内容を受けて…

○新しい子ども・子育て支援事業計画の基本目標、施策の方向性

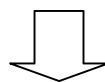
- ・基本的な考え方や方向性は、現在の「子育て応援プラン」と同様
- ・親の子育て力をつける親支援と次世代育成
- ・市民力、地域力を活かした子育て支援のネットワークづくり
- ・子育てしやすい風土づくりと意識醸成(家庭、地域、企業)
- ・地域の子育て支援人材の掘り起こしと育成
- ・子育て支援情報の整理、効果的な発信

子ども・子育て会議ワーキング第2部会 実施報告

■第2部会【8月5日、8月26日、9月4日開催】

保育ニーズを支えるには～今後10年の0・1歳の保育ニーズの担い手作り～

- A 子育てしやすい環境を作るため、企業ができることは何か
- ・ 育休制度などがあっても利用しづらいといった社内風土を改善する。
 - ・ 子育て関係の手続き代行や相談業務を行う企業内コンシェルジュを配置してはどうか。
 - ・ 設備投資や人材確保のリスク軽減のため、企業同士が連携した事業所内保育の検討。
- B 「子どもにとって理想」の保育環境を整えるために
- ・ 「保育環境」の質の向上⇒家庭的（少人数）な保育の推進（「目」と「心」が行き届く保育環境づくり）
 - ・ 「保育士（家庭的保育者）」の質の向上⇒地域研修システムの構築、保育士の地位向上・処遇改善
 - ・ 「親」と「保育士」の心のゆとりづくり⇒子育てをコミュニティ全体、企業と支える仕組みづくりが必要。（経済的支援含む）
 - ・ 安定的に家庭的な保育を行うために⇒保育士派遣システム等の構築が必要。
- C 男性の育児参加促進と次世代の親育成について
- ・ 一時預かり等様々な支援体制があるが、病後児対応など課題も多い。
 - ・ パパ、ママ合同サークルを作り、情報共有、情報発信を推奨する。
 - ・ 子育て経験の乏しいおじいちゃんへの育児支援も大切。地域の子どもと接する機会を設け、育児の楽しさと可愛さを知ってもらう。
 - ・ 中学生以降の世代に、子どもと交流する機会をより多く設ける。
 - ・ 潜在保育士と小規模保育所の繋がりを強め、現場復帰への足掛かりとしてもらう。



部会の検討内容を受けて…

- 企業所内子育てコンシェルジュの設置や子育て優良企業の取り組みの積極的な発信
- 事業所内保育の実施について、行政としての支援策を検討
- 家庭的な保育事業を安定的に運営するための支援策を検討
- 社会全体で子育てをすすめるしくみづくり及び「ワークライフバランス」実現のための支援策を検討（何か1つでもやり抜くと社会が変わる。）
- 小規模保育事業を中心とした「子どもにとって理想」な保育環境づくり
- 「次世代の親育成事業」の拡充
- 「育じい養成事業」の検討

子ども・子育て会議ワーキング第3部会 実施報告

■第3部会【8月19日、9月10日開催】

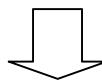
小1・小4の壁を打破しよう ～放課後児童クラブと延長・預かり保育の連携と必要性～

●現状と課題

- ・保護者からの延長・預かりのニーズが高まってきているとともに、そのニーズは多様化してきている。核家族化により地域の繋がりが薄くなっている。
- ・児童クラブの基本情報が不足している。
- ・児童・家庭の状況を引継ぐ連携が不十分である。(保育園・小学校・地域等とのつながり)
- ・児童クラブにおいて、支援が必要な児童への対応が不十分である。(日常の対応・職員のスキルアップ)
- ・保護者目線も大事だが、子ども目線で考えることが必要である。
- ・民間の活用をもっと考えてよいのではないか。
- ・人材を確保するため、職員の処遇を良くする必要がある。
- ・現在、児童クラブは無料であるが、有料を検討してよいのではないか。

●解決策

- ・児童クラブの利用の枠組みを明確にする。(入会規定・きまりの明確化、申請書を詳細化)
- ・保育園・幼稚園・小学校・地域との連携を深める。地域ではコミセンの活用。
- ・配慮が必要な児童への対応については、職員に対して研修の充実とアドバイザーの配置が必要。(専門の職員が巡回指導や心のケア、子どもとの接し方などをアドバイス・相談にのる。)
- ・必要な情報を確保し、共有する仕組みが必要。(すこやかファイルの活用、入会時の調査票の詳細化、学校・児童クラブ・保護者のケース会議の実施)
- ・行政と民間がそれぞれの役割を担い連携していく。



部会の検討内容を受けて…

- 保育園・幼稚園・小学校・地域との連携強化
- 子どもが自由に集まれる「寺子屋」のような事業を検討
- 民間が実施する放課後児童クラブ事業のモデル事業化、行政と民間との情報共有の方法の検討
- 児童クラブ利用の枠組みの明確化(入会規定・きまりの明確化、申請書を詳細化)
- 配慮を要する児童への受入れ対応の充実(児童厚生員のサポート体制・必要な情報の確保策の検討)
- 児童厚生員の賃金改定・研修内容の充実
- 時間外の運営の方法、利用料の有料化については今後も検討を継続

子ども・子育て会議ワーキング第4部会 実施報告

■第4部会【8月21日、9月2日開催】

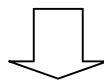
パパママへの応援をどうする？ ～子育て支援センターのあり方と親支援～

○親支援・子育て支援センターの課題

- ・ 孤立感を感じている保護者が多い
- ・ 子育てに関する情報が多すぎるため、自分に必要な情報を選べない
- ・ 支援が必要な人に支援が行き届いていない
- ・ 保育士不足、支援者の質の向上
- ・ 次代の親の育成の場が少ない
- ・ 妊娠期・産後すぐの支援や就労している親へのサービスが不足している
- ・ 職場の育児に対しての理解が不足している
- ・ 発達障害・DVに関する相談支援が不足している

○解決策・必要なこと

- ・ 子育ての駅と保育園併設の子育て支援センターの役割分担、効果的な配置場所・数の検討
- ・ 情報の整理、情報提供の強化
- ・ 支援センターと窓口・関係機関の連携、ネットワークづくり
- ・ 地域力の活用（母子保健推進員・主任児童委員との連携、育じい・育ばあの養成）
- ・ 就労している親向けの事業の充実
- ・ 妊娠期向けの事業の充実、産後すぐの産婦への支援の充実
- ・ 次代の親の育成に関する事業の充実
- ・ 障害児への対応の充実
- ・ 施設の利用者同士の交流事業の充実



部会の検討内容を受けて…

○平成27年度以降の事業展開

- ・ 支援センターの役割分担の明確化及び配置場所・数の検討
- ・ 子育てコーディネーターの配置（配置場所・人数等の検討）
- ・ 情報提供の強化（紙・HP・SNSによる情報提供）
- ・ 子育ての担い手（子育て支援員、育じい・育ばあの養成）の養成
- ・ 思春期向け次代の親育成事業の充実
- ・ 働いている親向けの事業の充実
- ・ 障害児への対応の充実
- ・ 施設の利用者同士の交流事業等による、孤立感の解消